



経済学部 経済学科 山本 俊一郎(やまもとしゅんいちろう) 教授

地域ブランドや産地の力に着目し、衰退しつつある
中小企業が生き残っていくための付加価値を調査・研究

■ 衰退過程にある日本の地場産業を調査・研究。新たな付加価値をつけて生き残っていくためには？

経済地理学の専門家である山本俊一郎教授は、日本の中小企業の中でも斜陽産業と捉えられている機械部品・日用消費財などの製造業をテーマに研究しています。縮小・衰退していく地場産業の集積地域の競争力や変容の過程に着目して研究し、地域ブランドとは何か、産地の力とは何か、新たな付加価値をつけて今後存続していくためのヒントを明らかにしています。

近年の研究テーマは、かつては差別産業とされてきた歴史のある東京都墨田区の皮革関連産業です。この地域では既存の生産構造が崩壊していくなかで、若手クリエイターを中心に新たな作家ブランドが生まれており、皮革産地が“産地ブランド”から“企業ブランド”へ変容して生き残っていく過程を調査しています。また京都の伝統工芸品の産地や地域ブランドの研究、宮城県石巻市の雄勝硯産地の研究、国際競争下における北九州の金型産業の現状と課題など、日本各地の様々な事例を現地調査を行いながら研究を進めています。

■ 2018年より、3月12日「だがしの日」に、駄菓子配布イベントを開催。

山本ゼミでは、東淀川区の小松商店街に賑わいを創出し、近隣の子供たちを中心とした人々との交流の場を形成することを目的に、駄菓子の配布イベントを毎年3月12日に開催しています。配布する駄菓子は「一般社団法人DAGASHIで世界を笑顔にする会」より提供していただいています。3月12日は、「だがしの日」として日本記念日協会に認定されており、当日は全国で同様のイベントが開催されます。2022年からは、会場を小松商店街から大阪経済大学に移し、活動を継続しています。

■ 白浜町や能勢町において地域が抱える社会課題解決に向けた取り組みを実践。

山本ゼミでは、和歌山県白浜町や大阪府能勢町と連携して、地域の魅力や課題を発見し、地域振興策を考えるフィールドワークに取り組んでいます。学生たちは、ヒアリング調査を踏まえて、“ないものねだり”から“あるものさがし”をする地元学の視点で、地域ブランド構築に向けた新たな価値づくりの種を模索しています。

山本俊一郎教授 プロフィール 詳細はこちら⇒<https://web.j8.osaka-ue.ac.jp/ouehp/KgApp?resId=S000087>

1974年生まれ、香川県出身

経歴：東北大学大学院理学研究科、2005年～本学教授、2019年～本学学長

論文：”Expansion of Kyoto city’s traditional crafts sector into overseas markets” *Geographia Polonica*, 86(2), (単著 2013)
「国際競争下におけるプラスチック金型産業の現状」(「経営経済」2016年)

主な著書：「大都市産地の地域優位性」ナカニシヤ出版(単著 2008)

所属学会：日本地理学会、人文地理学会、経済地理学会、東北地理学会

受賞歴：東北地理学会研究奨励賞(長谷川賞) 2008年